



九州大学とグラミン・コミュニケーションズ (Grameen Communications) が 交流協定を更新

(7月20日ノーベル平和賞受賞者 ムハマド・ユヌス博士立会いのもと調印式開催)

概要

九州大学は、2007年に締結したバングラデシュのグラミン・コミュニケーションズとの交流協定を更新します。この締結の更新を受け、これまでの共同研究やプロジェクトの継続と、日本での活用（被災地域や限界集落の支援など）も視野に入れたプロジェクトの新しい展開を行います。

■背景

グラミン・コミュニケーションズは、グラミン・グループに所属する非営利団体です。同グループはムハマド・ユヌス氏が1983年に設立したグラミン銀行を母体としており、ユヌス氏とグラミン銀行は2006年にノーベル平和賞を受賞しました。2007年に九州大学とグラミン・コミュニケーションズは交流協定を締結しました。

グラミン・コミュニケーションズは、ソフトウェア開発、インターネットサービス、データ処理サービス、ICT 技術研修などを通じてバングラデシュの、特に農村部の生活向上を目指す組織です。NEC・丸紅と共同で一般市民を対象に感染症の予防に向けた映像制作と配信事業を行うなど、日本との関わりも深い組織です。Village Computer & Internet プロジェクトでは、ICT インフラ整備と村人たちへの教育に力を入れています。また、遠隔ヘルスケア・センターを設置し、病院へのアクセスが困難な人達が電話で医療相談ができるようにするプロジェクトの実施にも取り組んでいます。

2007年に交流協定を締結して以来、九州大学の安浦寛人理事とアハメッド・アシル准教授（システム情報科学研究院）が中心となり「開発途上国の社会情報基盤構築」プロジェクトを実施しています。バングラデシュでICTを活用した農村情報プラットフォーム(GramWeb)、農家の所得向上プロジェクト(JICA-IGPF)、ICカード式電子通帳(ePassbook)、農村部の健康促進（ポータブル・クリニック）、車搭載型社会サービス (Toyota-SSW:Social Services on Wheels)などのプロジェクトを実施しています。これらのプロジェクトは、グラミン・コミュニケーションズを通じてグラミン・グループから様々なサポートを受けています。

2007年の交流協定の締結以来、グラミン・グループと行った主要な活動は以下の通りです。これらの活動を通して、九州大学は日本とバングラデシュ双方の社会に対して貢献しています。

1. ソーシャル・ビジネス実施研究組織の設立
平成22年 3月：グラミン・クリエイティブ・ラボ@九州大学 (GCL@九大)
平成22年12月：一般財団法人グラミン・テクノロジー・ラボ (GTL)
平成23年11月：ユヌス&椎木ソーシャル・ビジネス研究センター (SBRC)
2. ソーシャル・ビジネス分野におけるグラミン・グループとの合弁企業の設立支援
平成22年10月：Grameen YUKIGUNI MAITAKE CO.,LTD. (グラミン・雪国まいたけ)
平成23年12月：WATAMI Social Business Ltd. (ワタミ・ソーシャル・ビジネス)

3. 技術開発プロジェクト

- ① 農村情報プラットフォーム開発(GramWeb)
- ② 農家の所得向上プロジェクト (JICA-IGPF)
- ③ ICカード式電子通帳プロジェクト (ePassbook)
- ④ 農村部の保健医療促進 (ポータブルクリニック)
- ⑤ 車搭載型社会サービス (Toyota-SSW:Social Services on Wheels)

4. インターンシップ・プログラムの実施

ソーシャル・ビジネス・インターンシップ・プログラムを通して、400人以上の日本人学生や研究者、企業関係者がグラミン・グループをはじめとする企業や組織の活動現場を訪問しました。

■今後の展開

本交流協定の締結更新により、九州大学とグラミン・グループが実施しているプロジェクトを継続します。さらに、これまでの研究で得られた知見を、日本などの先進国の被災地域や過疎地域への応用も開始する予定です。

これまでバングラデシュでのプロジェクトに取り組んできた九州大学の各分野の教員をはじめ、学内の関係部局とも協力しながら世界の抱える社会課題の解決に貢献することを目指します。

【お問い合わせ】

大学院システム情報科学研究所

准教授 アハメッド・アシル

電話：092-802-3632

Mail：ashir@soc.ait.kyushu-u.ac.jp